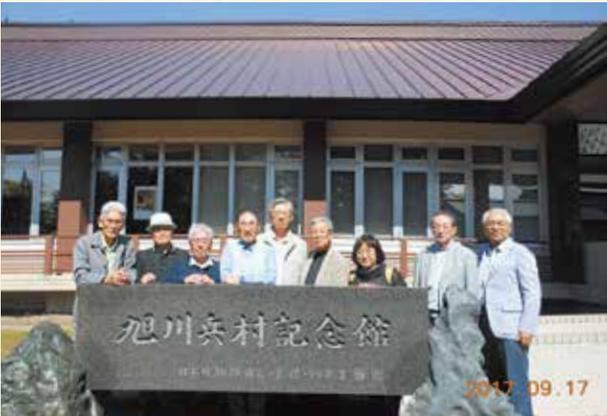




平成28年度新得町公民館ロビー展(消防展)



平成26年度研修旅行(旧下余市運上家)



平成29年度研修旅行(旭川兵村記念館前)



平成26年度新得中学校総合学習(旧新内小学校)



平成29年度研修旅行(土の館)



平成27年度に設置された旧新得機関区跡銘板



平成30年度に設置された中土場跡史跡標柱



平成28年新年会



令和2年度新得中総合学習(旧北海道拓殖鉄道)



平成30年度新得町民芸能芸術祭展示「レコード」



令和2年度新得町民芸能芸術祭展示(新得卸売市場)



元新得卸売市場跡標柱 令和2年12月22日建立



令和3年Aコープ新得店の看板復元



令和2年新得卸売市場看板の復元作業



令和3年史跡等巡回整備



令和2年度屈足中総合学習(旧狩勝線トンネル)

### 開拓の道具 歴史を学ぶ

ふるさと館見学会



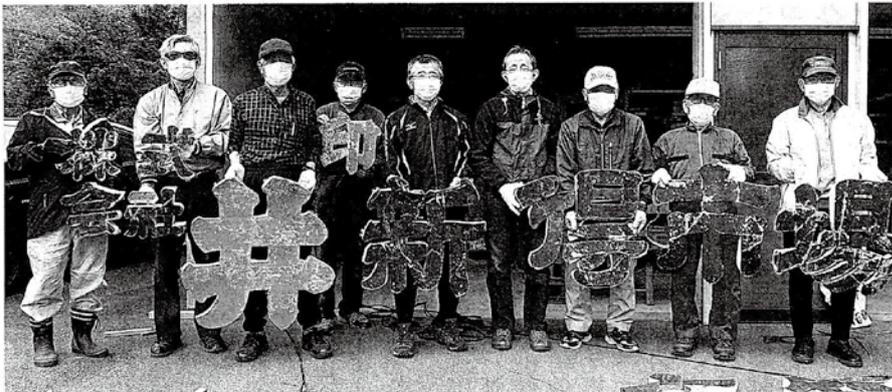
足こぎ脱穀機などを  
熱心に見る参加者

【新得】町郷土資料収蔵庫「ふるさと館」(町佐幌基線86)の見学会(町教委主催)が6月27日、開かれた。旧上佐幌小学校舎を改修した収蔵庫は、町教委が町郷土研究会(高橋昭吾会長、会員17人)の協力で整理作業。町内から寄せられた約1500点の道具類や文献などの保管資料を整理して展示した。同館中央には開拓に関わる道具類が置かれ、四方に「鉄道の部屋」「昭和の部屋」など18のブースに分かれている。

この日の見学会には30人が参加し、「足こぎ脱穀機」や「荒縄綯(な)え機」を懐かしそうに見る高齢者もいた。母親と参加した今村拓人君(新得小6年)は「授業で町の歴史は学んだが、昔に使われていた道具を見るのは初めて」と話し、郷土研究会の会員に目的や使い方など質問していた。

その後、町指定文化財の「新内バツタ塚」(町新内西2線185)を見学し、先人の苦労や偉業を学んだ。(大井基寛通信員)

## 新聞掲載記事



修復された看板と郷土研究会の会員

## 新得卸売市場レトロ看板復元

### 町郷土研究会

【新得】新得町郷土研究会(高橋昭吾会長、会員16人)は24日、元新得卸売市場(町1条北1)の看板を復元した。高橋会長は「先人が残した遺産とも言える貴重なレトロ看板を大切に保存したい」と話す。

同市場は初代社長の今井禎一郎さんが1920(天正9)年、野菜や魚などの生鮮食品を卸売り取引する「井印新得魚鮮市場」として開業。2014年まで



在りし日の卸売市場

94年間にわたり、食品の安定供給を支えた。

「井印新得卸売市場株式会社」の看板は、1967年に新築された新社屋の正面に掲げられ、市場の顔としておよそ半世紀にわたり存在感を示してきた。戦後、町内で板金業を営んでいた和田文次郎さんが製作した物で、トタン板(亜鉛鉄板)を切り抜いて立体的な文字に加工した。

2015年に建物を解体した際、同研究会が看板を譲り受けて保管していた。この日の作業には会員9人が参加。トタン板のゆがみや折れ曲がった箇所をハンマーで打ち直したり、はんだで接合したりした。参加者は、高度な技術力を持った昔の職人技に感動し、復元を喜んだ。看板は今後、町郷土資料収蔵庫「ふるさと館」(上佐幌基線86)に展示する。

(佐々木健通信員)

### 市場跡に史跡標柱 町郷土研らが設置

【新得】町教育委員会と町郷土研究会が、元新得卸売市場跡地(町1北1)に「史跡標柱」を設置した。両者はまちづくりのために苦闘してきた先人の足跡を後世に伝えようと、1985年から町内各所に標柱を

設置しており、今回の市場跡で20基目。



市場跡地に設置された「史跡標柱」。左は高橋会長、右は研究会の秋山秀敏事務局長

同市場は、生鮮食料品の円滑な流通を図るため、初代社長の今井禎一郎さん(故人)が1920年、道公認の「井印新得魚鮮市場」として設立した。戦時中の一時期は配給統制機関となったが、戦後に

魚菜市場として復活。2014年3月に解散するまでの94年間、町の台所を支えてきた。

標柱は昨年12月22日、町の「産業担い手育成住宅事業」を活用して整備された弁当店「nonono」の北側角地に設置。高さ1・2メートルの鉄骨製で、史跡の歴史や由来などを記載している。

同研究会の高橋昭吾会長は「郷土の歴史を知る貴重な指標。残すことで町の発展につなげたい」と話している。(佐々木健通信員)

## 歴史ある「Aコープ」見て

新得町郷土研究会 ふるさと館に看板展示



ベニヤ板に取り付けられた看板

【新得】町郷土研究会(高橋昭吾会長、会員16人)は、昨年閉店したAコープ新得店(町1南3)の看板を町郷土資料収蔵庫「ふるさと館」(上佐幌基線86)に展示した。看板は店舗正面に掲げられていた。60年以上の歴史を有する店の顔は「保存価値が高い」として、4月に建物の解体に合わせて同会が譲り受けていた。7月24日に行った展示作業には高橋会長ら会員5人が参加。2枚のベニヤ板に看板を取り付けた。高橋会長は「組合員や地域利用者の暮らしを守る拠点だった同店の歴史ある看板を大切に保存したい」と話している。(佐々木健通信員)